

## ★移行期間中の授業改善 4つのポイント★

平成22年4月、小学校で外国語活動を経験し、音声面を中心に外国語に慣れ親しんだ児童が中学校へ入学してきました。その生徒が3年生になると新学習指導要領が全面実施となり、語彙の増加した教科書で学習します。移行期間中にどのような点に配慮して授業改善を行えばよいのかを示します。



また、文部科学省から、「**新学習指導要領に対応した外国語活動及び外国語科の授業実践映像資料**」が配布されました。小学校・中学校・高等学校版共に、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業の在り方について方向性を示唆する授業のダイジェストが収録されています。今後、様々な研修に活用しましょう。

### 4技能の総合的な育成



「聞くこと」や「読むこと」で得た知識等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通して発信することにつながる指導を充実させることが重要です。

→「つないでシートⅡ」(スタンダードシート)の活用

### 基礎的・基本的な知識・技能を活用した言語活動の充実



言語材料についての知識や理解を深める言語活動から、考えや気持ちなどを伝え合う言語活動まで、言語活動の充実を図ることが重要です。

→「つないでシートⅡ」(ベーシックシート)の活用

### 小学校外国語活動の成果を踏まえた指導の充実



中学校の指導計画の作成に当たっては、小学校における外国語活動を通じて培われた一定の素地を踏まえながら、中学校における英語教育への円滑な接続ができるように配慮する必要があります。

→「つないでシート」活用ハンドブックの活用

### 語彙の充実



身近な事柄について一層幅広い言語活動ができるようにするため、語彙が「900語程度」から「1200語程度」へと増加しています。言語活動などにおいて、活用を通して定着を図るようにすることが重要です。